

生命保険見直し術

知っておきたい生保用語 「保険見直し時編」



今回も、前回に引き続いて保険用語について説明します。今回は、生命保険見直し時に関わるキーワードを紹介します。

用語

転換…

加入している保険を下取りに出して新しい保険に加入する方法。いったん保険を解約して、その時まで積み立てられている金額を次の新契約の保険料に充当する。これが頭金になるので新しい保険の保険料が安くなるように見えるのがトリック。一概には言えないが、メリットは少ない。特に定期付終身から定期付終身への転換は最も意味がない。

予定利率…

保険会社はあらかじめ運用収益を見込んで保険料を割り引いている。その運用見込の利回りが予定利率。これが高いほど保険料は割安になる。平成2年は5.25%で現在は2.75~3.1%。見直しをするときは、予定利率の高いところの商品は残しておくほうが良い。終身、養老など積立性商品は特に!!

解約返戻金…

保険を解約したときに契約者に払い戻されるお金のこと。加入年数や保険種類によって変わってくる。保険料は死亡保険金財源や契約維持費などに充てられるため通常払込保険料の全額は戻らないので誤解しないように。特に短期の定期保険、定期特約のような掛捨て商品の返戻金は全くないか、ごくわずか。終身保険などの積立保険も加入後まもなく、返戻金はごくわずか。

更新…

定期付終身保険の定期特約を10年、15年といった一定期間ごとに見直しをすること。診査、告知なしで自動的に更新される。保険料は更新時点で再計算されるため、保険料が大幅アップする。定期特約は自動的に更新されるシステムになっているので、更新したくない場合は、更新前に保険会社より送られる更新拒否通知はがきを送付すればいい。

減額…

加入している保険の保障額を減らすこと。保険料の負担を軽減することができ、保険はそのまま有効に継続する。減額部分は解約したことのなり、その部分に相当する解約返戻金が支払われる。

払済保険…

加入している保険の保険料払込を中止して保険を残す究極的方法。その時点での解約返戻金で将来の保険料を納めてしまうこと。ただし解約ではない。また保険金額はもとの保険より少なくなる。保険料の払込が困難になったり、また法人契約においては税制が変更になったときなど、非常に有効に活用できる制度。

以上いかがだったでしょうか。たとえば「転換」などは、みなさん一度はすすめられたこと、もしくは既に転換してしまったことがあるのでは…?
「今の保険を新しい保険に替えませんか?」は要注意です。ぜひご相談を。

